

2040年JX金属グループ長期ビジョン の達成を支えるリスクマネジメント

～ 全社的リスクマネジメント（ERM）の高度化と
クライシスマネジメントの取り組み ～

2025年7月23日

総務部リスクマネジメント室

千々岩 沙緒里

 **JX金属株式会社**

目次

- 1 会社概要
- 2 JX金属グループ ERMの歩みと位置付け
- 3 ERMの高度化に向けた取り組み
- 4 クライシスマネジメントの取り組み

会社概要

会社紹介

銅・レアメタル・貴金属を扱う 非鉄金属の総合メーカー

社名	JX金属株式会社 (英文名称 JX Advanced Metals Corporation)
創業	1905年 日立鉱山開業
資本金	750億円
売上高	7,149億円 ※2025年3月期
営業利益	1,125億円 ※2025年3月期
従業員数	3,267名(単体)/10,413名(連結) ※2025年3月31日時点
本社所在地	東京都港区虎ノ門



★2025年3月19日 東京証券取引所プライム市場へ上場！

2025年3月19日 東京証券取引所での上場セレモニー



非鉄金属とは？

『非鉄金属』 = 鉄以外の金属



ベースメタル

銅(Cu)、鉛(Pb)、亜鉛(Zn)
など社会の中で多く使用
される金属



レアメタル

リチウム(Li)、ニッケル(Ni)、
チタン(Ti)、など存在量が稀
であるか抽出困難な金属



貴金属

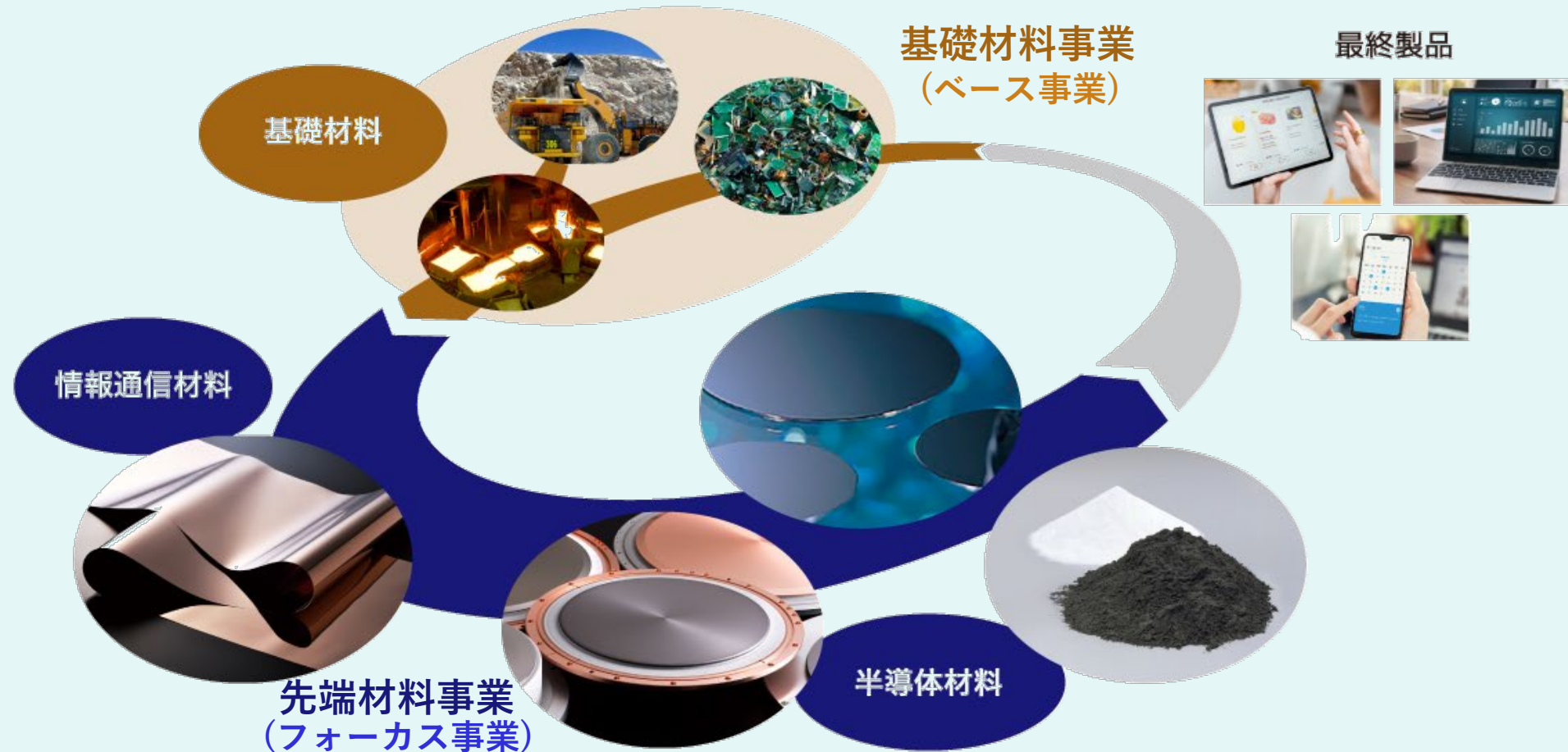
金(Au)、銀(Ag)、白金(Pt)、
など希少で経済的に非常
に価値がある金属

JX金属は銅・レアメタル・貴金属を扱う総合素材メーカー

JX金属の 主力事業

上流から下流まで一貫した事業を展開

金属そのものを生み出す事業から最先端の素材の開発まで
一貫したサプライチェーンをグローバルに展開しています。



数字で見る JX金属

世界トップシェア製品を数多くラインナップ

機能材料事業部



圧延銅箔

世界シェア
約80%

スマートフォン
液晶モニターなど

薄膜材料事業部



半導体用ターゲット

世界シェア
約60%

クラウドサーバー/最先端デバイス
カメラなど

薄膜材料事業部



InPウェハー

世界シェア
約30%

データセンター
光通信など

タンタル・ニオブ事業部



電子材料向け 高純度タンタル粉

世界シェア
No.1

※自社調べ ほか多数

国内主要拠点



本社 東京都港区

佐賀関製錬所 大分県大分市
金属製錬、リサイクル

倉見工場 神奈川県高座郡
機能材料（圧延銅箔等）

茨城県拡大図

茨城事業所 3拠点

磯原地区 茨城県北茨城市
半導体材料（半導体材料等）

日立地区 茨城県日立市
金属製錬（電錬）、機能材料（銅箔）、
リサイクル、技術開発

★複合事業所

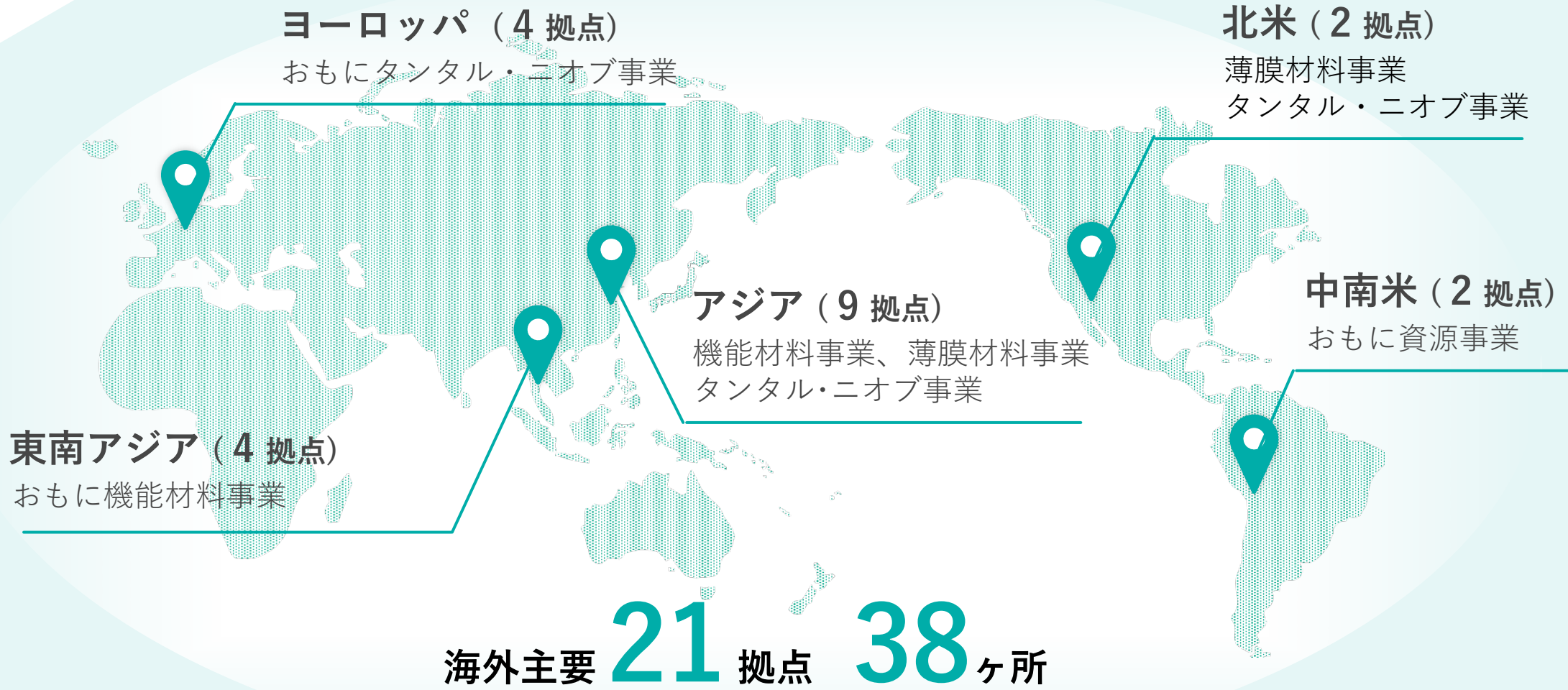
ひたちなか地区 茨城県ひたちなか市

★2025年度末稼働予定

国内主要 **5** 拠点 約 **30** ヶ所

海外主要拠点

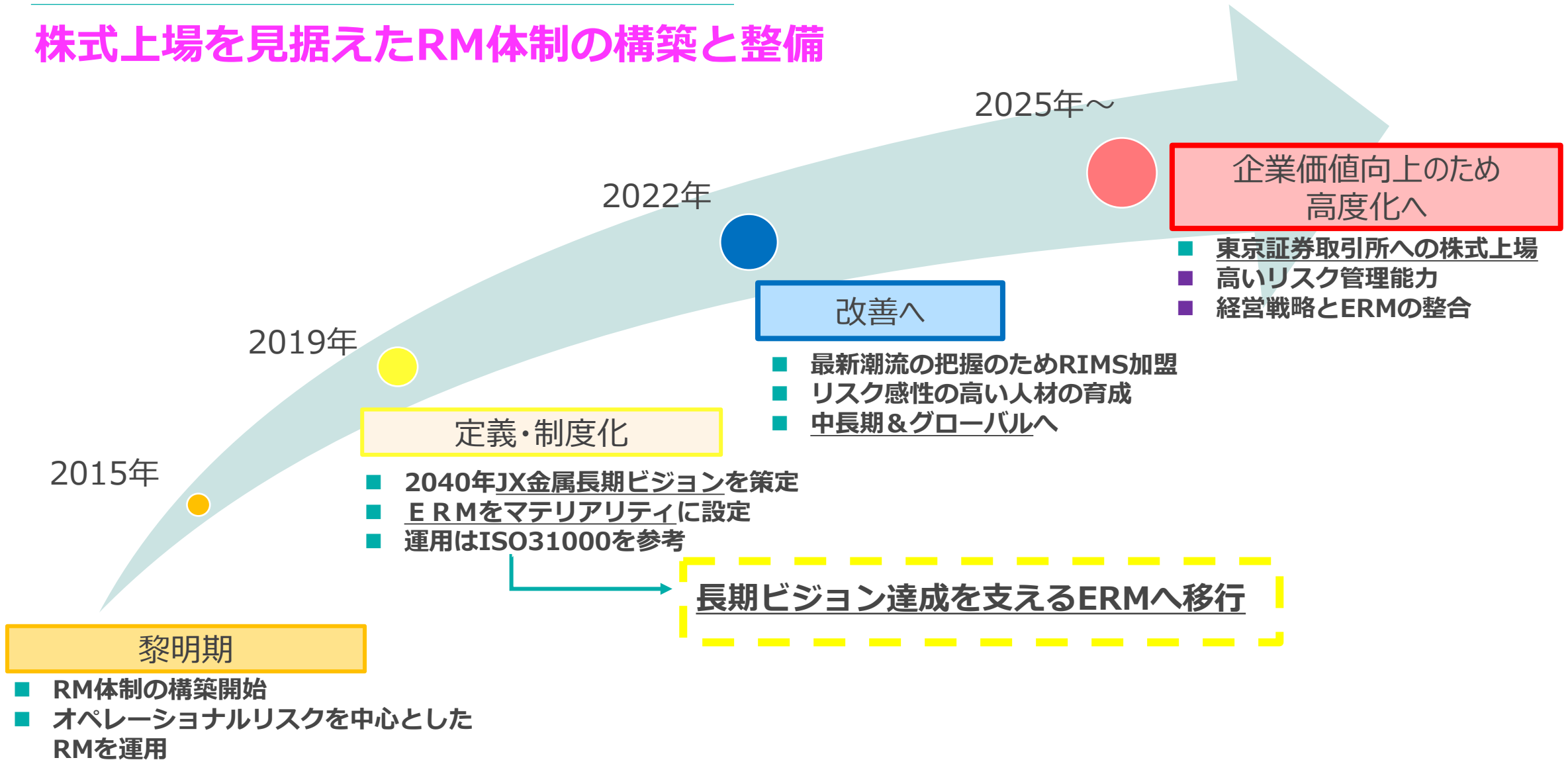
グローバルに幅広く事業を展開



JX金属グループ ERMの歩みと位置付け

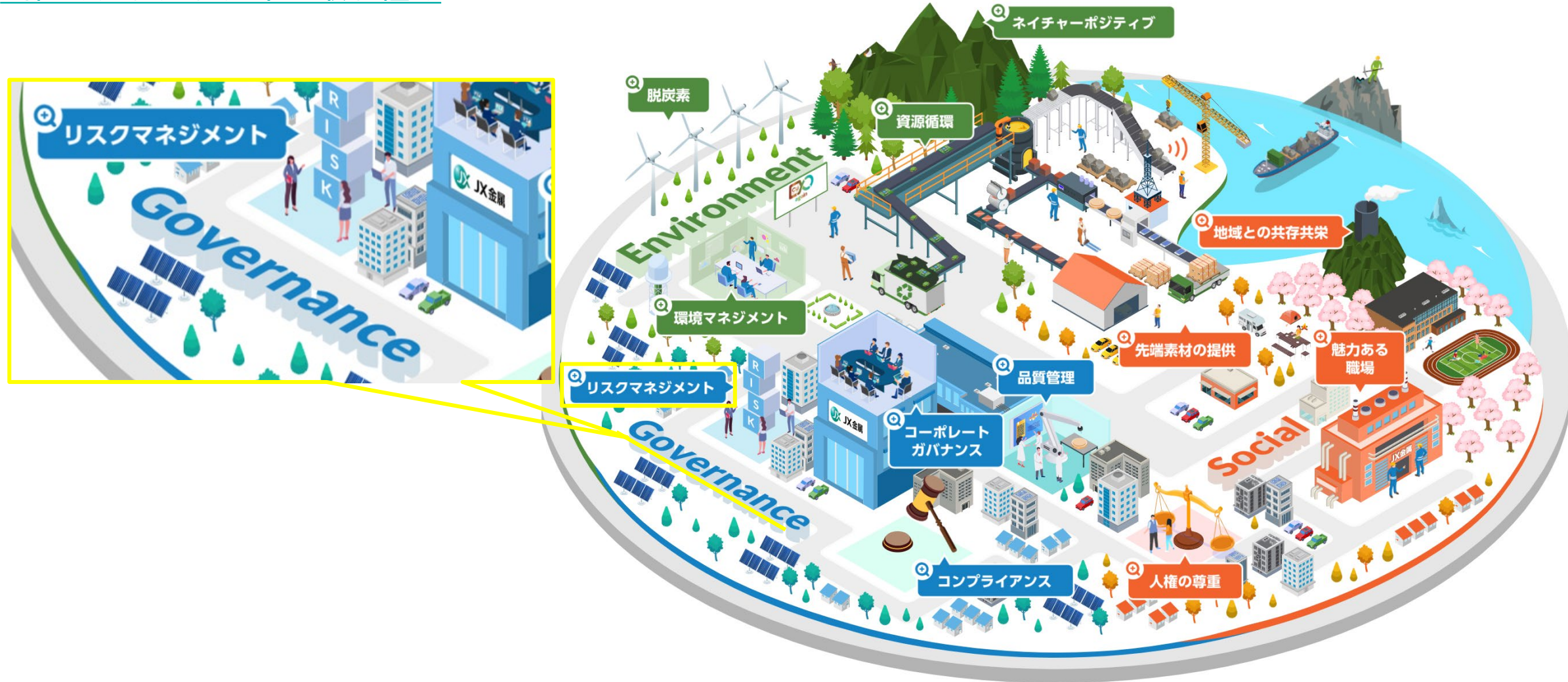
J X 金属 G ERMの歩み

株式上場を見据えたRM体制の構築と整備



当社ERMの位置付け

当社マテリアリティと取り組み



ERMの高度化に向けた取り組み

ERM高度化に向けて

ERM活動の浸透とリスク感度の高い人材育成

「JX金属グループ2040年長期ビジョン」の達成

「装置産業型企業」から「**技術立脚型企业**」への転身により、激化する国際競争の中にあっても**高収益体質を実現、半導体材料／情報通信材料のグローバルリーダーとして、持続可能な社会の実現に貢献**する

ERM改善～高度化

グループ全体へのERM活動の浸透

リスク感度の高い人材育成

特 徴

1. リスクの定義

2. 重要／経営リスクのリスクアセスメントプロセス

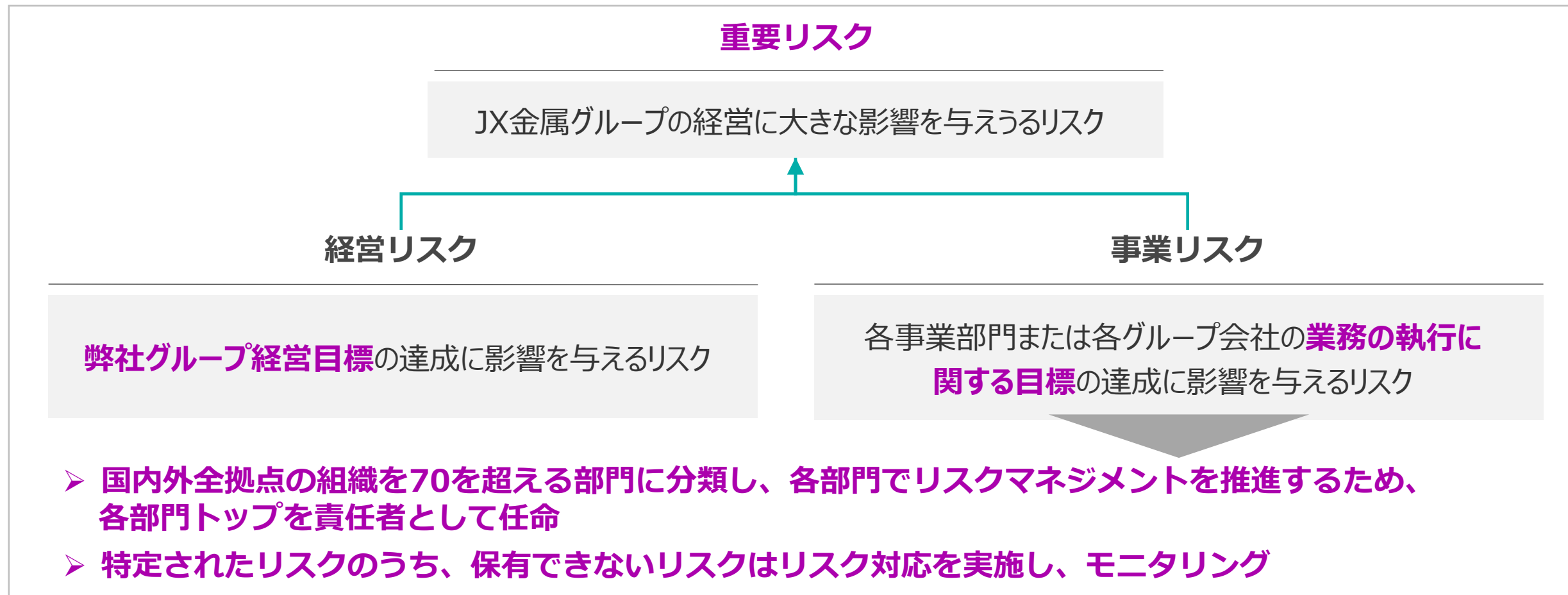
3. 地政学リスクへの取り組み

4. 知識とスキルの獲得

5. ERM成熟度モデルの活用

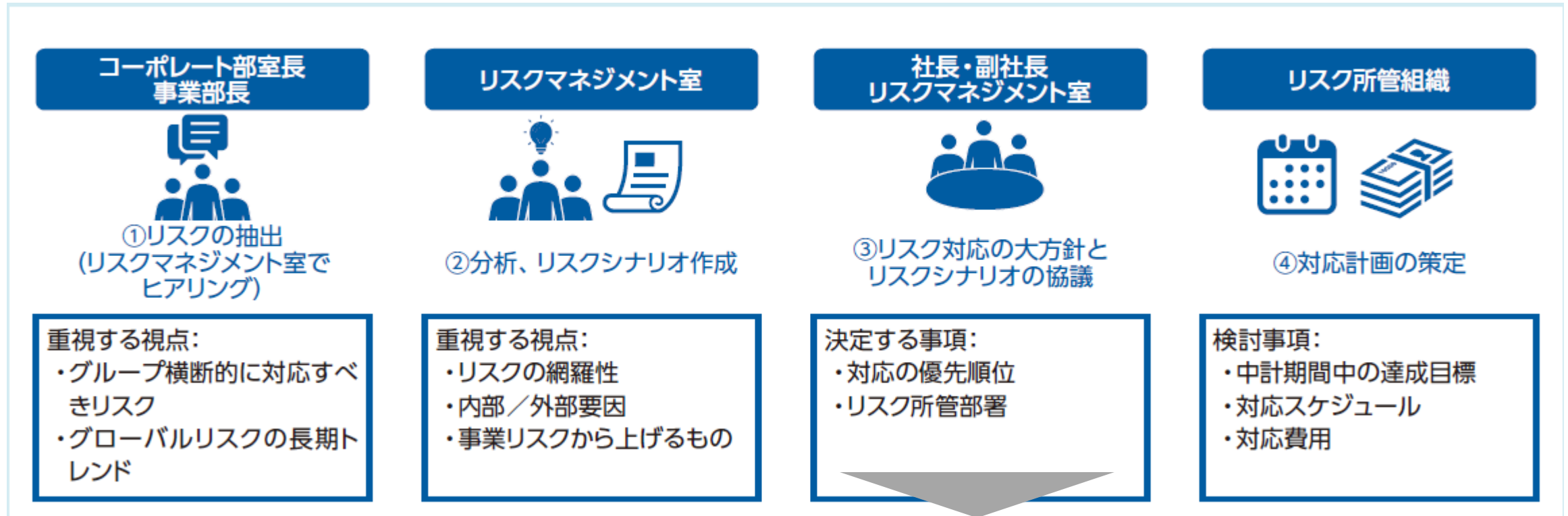
特徴1. リスクの定義

リスク = JX金属グループ各社の経営に影響を与える一切の不確実性
リスク分類 = 組織内に定着しやすいシンプルさを重視



特徴2. 重要／経営リスクのリスクアセスメントプロセス

経営層と共にリスクの特定～シナリオプランニング



【シナリオプランニングの重要性】

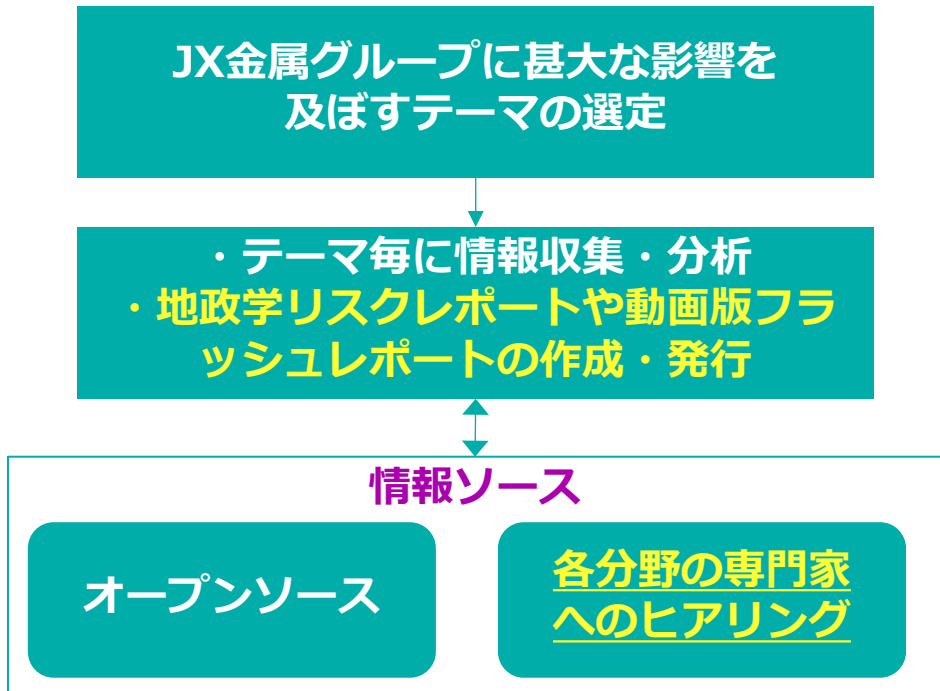
- 全ての重要/経営リスクを対象に、リスクとその影響を詳細に言語化することで、経営層をはじめグループ内でリスクをより正しく捉え、リスク認識の統一を図ることができる
- 全てのリスクシナリオは社長・副社長との複数回の協議を経て確定

特徴3. 地政学リスクへの対応 1/2

グループシンクタンクと連携した高品質な情報でリスクマネジメントを支援

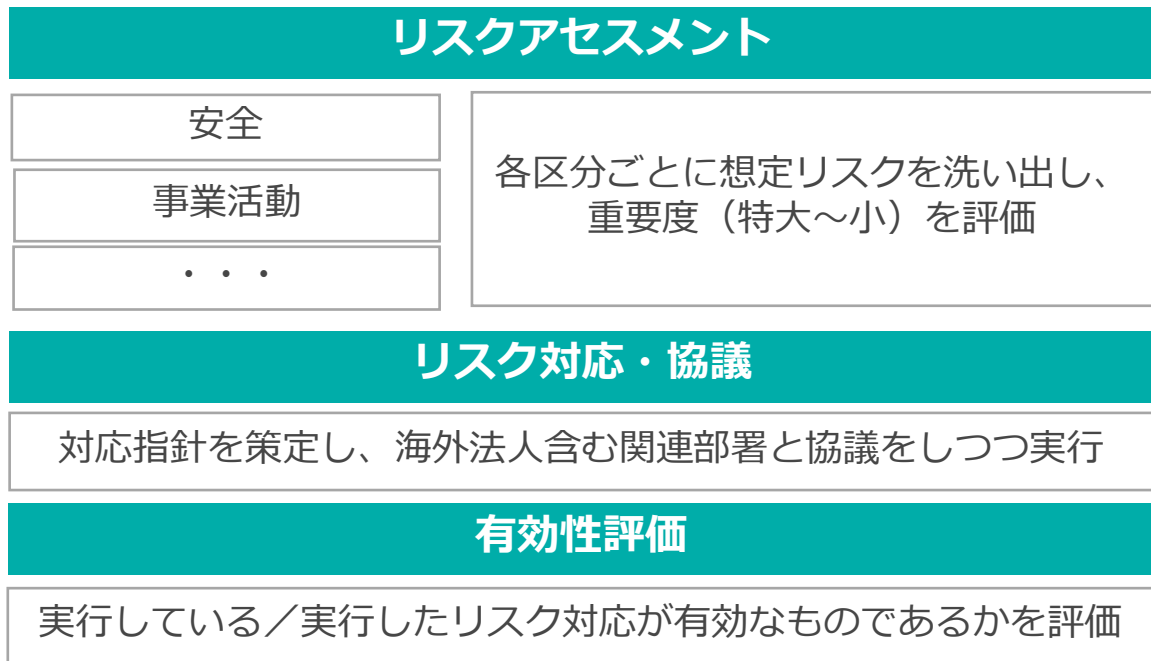


【情報収集・分析のスキーム】



連携

【国内外組織横断のリスクマネジメント】



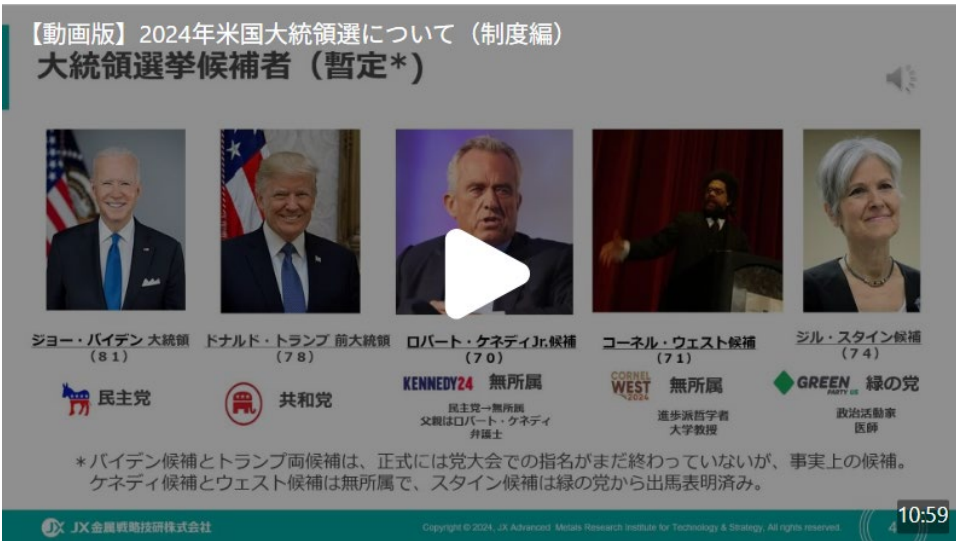
モニタリング・レビュー

特徴3. 地政学リスクへの対応 2/2

リスクイベント毎のマンスリーレポート、時宜を得たフラッシュニュースの発信

【マンスリーレポート】

【動画版フラッシュニュース】



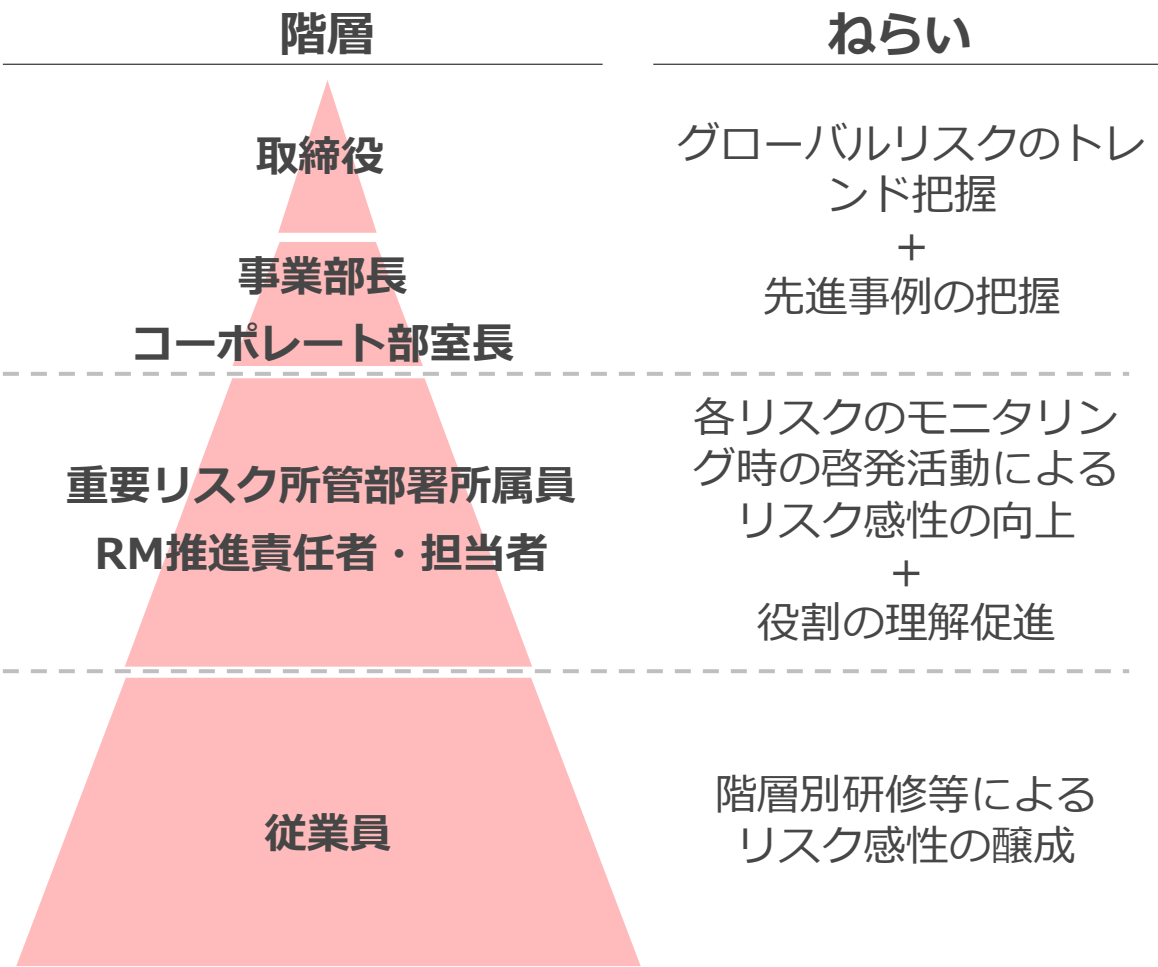
- 各国や国際機関の動向と短中期展望をまとめ、**毎月の変化点**が分かるよう、配信。

- 注目度の高い事象等は概要とJX金属グループへの影響をまとめ、**音声読み上げとアニメーション機能を活用し、視聴しやすい、かつ理解しやすい**よう工夫し、動画で配信。

特徴4. 知識&スキル獲得 1/2

一人ひとりの日常のリスクマネジメントに磨きをかけていく

【リスクマネジメント教育体系（全社）】



【リスクマネジメント室員のスキルセット】

(一部抜粋)

リスクマネジメント室員として業務を行う上で必要な知識・スキル	種別	アウトプット(知識・スキルがあることで期待できるアウトプット)	アウトプットのレベル
事業内容の理解	知識	●事業内容を理解した上で、事業部や経営層と会話することができる	レベル1～3
リスクマネジメント室の主要な業務プロセス	知識	●リスクマネジメントの仕組みを理解し、国際規格や関連法令の最新情報を踏まえて、当社のERMの設計や改善を行うことができる	レベル1～3
契約締結の知識	知識	●当社の基準を満たさない契約条件を避けることができ、契約業務回りのリスクを低減することができる	レベル1～3
保険の知識	知識	●付保の必要性やその内容を判断でき、最適な付保基準が判定できる	レベル1～3

- 業務の遂行に必要な**15**のスキル・知識とそのレベルを独自に設定し、**習得状況を可視化**。
- 室員は人事評価時に**自己評価**を行い、**上長との面談**を通じて習得状況や今後の課題を共有。
- 教育企画時の目安とするため、24年度には**リスクマネジメント推進責任者・担当者向け**のスキルセットも設定。

特徴4. 知識&スキル獲得 2/2

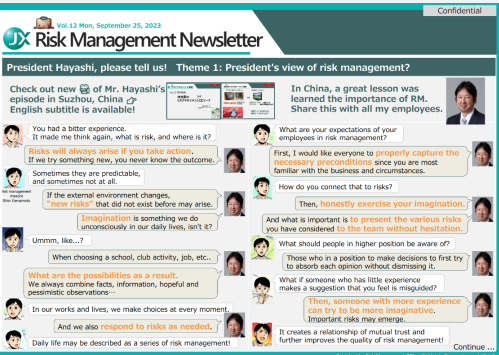
リスク感度の高い人材育成のための各種施策

【日常的な意識付け】

ニュースレターの配信



日本語版



英語版

グループ内勉強会での登壇



eラーニング (資料+理解度テスト)



【スキルの習得】

階層別研修の実施

経営層向け研修 2時間（講義+ワークショップ）



コーポレート部室長向け研修 4時間（講義+ワークショップ）



事業リスク把握調査説明会 2.5時間（講義+ワークショップ）



特徴5. ERM成熟度モデルの活用

RIMS成熟度モデルを活用、目標からバックキャストし、課題を明確化

【ERM高度化に必要な要素】



出典：RIMS Maturity Model

(参考) RIMSについて：

1950年設立のニューヨークに本部を置く非営利団体で、現在75を超える国々に20万人を超えるリスクマネジメントのプロフェッショナルを会員として擁する、グローバルなリスクマネジメント団体

【JX金属グループERMのあるべき姿の策定と改善】

2022年度策定



中期活動方針



評価

- 成熟度モデルの評価結果を基に**到達目標を設定**。
- 改善策検討時は、ERMに関する社内**アンケート結果も踏まえ**検討。
- **大学の研究室及び他企業とのネットワーク構築**、情報交換を通じて知見を獲得。
- **経営層との協議を経て**、改善策を順次実行し、更なる高度化を目指す

クライシスマネジメントの取り組み

クライシスマネジメントの取り組み 1/2

発生事象にとらわれないBCP（リソースベースBCP）の整備

- 考え方：対象製品を選定し、製品ごとに事業継続・復旧のために必要なリソース（設備・情報等ボトルネックになるもの）を整理の上、「それらが利用できなくなった場合」を想定した対策を検討
- 検討のプロセス：

ボトルネック洗出し・分析

①対象製品の選定

- ・ 事業部長へのヒアリングを通じて、事業への影響度合を確認し、選定

②製造プロセスフロー、原料、主要製造設備等の把握

- ・ 資料調査・ユニットご担当者へヒアリング

③ボトルネック候補の洗出し

- ・ 唯一設備（代替のない設備）
- ・ 唯一調達先/唯一製造委託先

ボトルネック対策方針の検討

④ボトルネック対策素案の検討

- 例）
- ・ 設備二重化
 - ・ 代替調達先/委託先の確保
 - ・ 早期復旧対策、復旧資機材準備 等

⑤ボトルネックの対策仕様書の作成

ボトルネック対策の充実 BCPの更新

⑥工場への説明

⑦工場での対策検討

- ・ 対策案の優先順位付け
- ・ 対策実施スケジュール検討

⑧工場での対策実行・BCP整備

- ・ ⑦のスケジュールに基づく対策実行
- ・ BCP文書の更新・整備

⑨対策進捗状況ヒアリング

クライシスマネジメントの取り組み 2/2

立地リスク調査の実施

- 調査対象 : 当社グループの国内外拠点
- 調査項目 : (国内) 地震・土砂崩れ・洪水
(海外) 地震・火山・津波・熱帯低気圧・温帯低気圧・雹・竜巻・雷・河川洪水・局地洪水・高潮
- 調査結果の活用 :
 - 各事業部及び関係会社所管部署長に結果を共有し、自然災害に対するリスク対応の検討時に参照
 - 「リスク高」と評価された拠点の所管部署に対してリスク対応検討状況のフォローアップ

【高リスク拠点所管事業部への説明資料（一部抜粋）】





ご清聴ありがとうございました

